

善導寺の家

平成 28 年度第 3 回採択

建設地	： 福岡県久留米市	竣工	： 平成 29 年 9 月	敷地面積	： 163.08 m ²
地域区分	： 6 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 125.87 m ²
設計者	： (有) 建築工房 悠山想	構造・階数	： 木造軸組・地上 2 階	建築面積	： 76.98 m ²

■提案の概要

○親の敷地内に建てる若い子育て世代のための住宅。地域の職人や技術の伝統を守るために、伝統的構法での家づくりを、あまり高価にならないように設計している。

○地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、外壁の土塗壁（貫入り・厚さ70mm）＋杉皮断熱材＋面材（ダイライト）＋モルタルリシンを採用している。

○伝統的な地域材として、天井仕上げに八女和紙を使用している。

○現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、夏の南風が卓越した蒸暑な気候である地域性に鑑み、吹き抜けを設け、室内に引き戸を多用して夜間の通風利用を促すとともに、南面・北面に深い軒庇を採用して、日射対策と雨からの保護としている。

屋根は瓦葺きとし、断熱・通気構造にも工夫している。準防火地域のため、外部建具は玄関のみであるが、地場の木製建具を使い、台風対策として雨戸を含めた多層構造の建具（気密対策として防寒じゃくり、ピンチブロック）を用いている。



市街地の住宅地における制約の中で伝統的な佇まいのある外観




奥行きを持たせた開放的な内部空間





上下方向の風の流れに配慮した空間構成

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 



環境負荷低減対策 

□深い軒・庇  

南側の庇の出：1.0m



深い軒・庇



□多層構成の建具  

雨戸、網戸、ガラス戸、障子の4枚引き込み戸が採用されている。

(気密対策、防寒じゃくり、ピンチブロック)



多層構成の建具


□土塗壁  

厚さ：70mm

貫5段入り




土塗壁

□木製建具 

杉材を使った建具





木製建具

□床板張り 

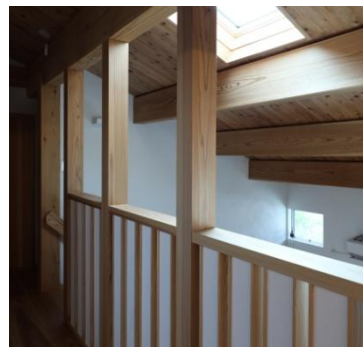
床材に無垢材/27mm厚が使われている



床板張り

□複数の窓の位置による通風への配慮  

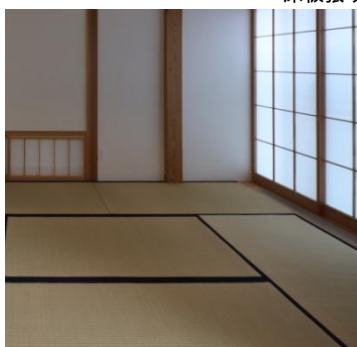
窓の高低差を利用した通風促進の効果が期待できる




複数の窓の位置による通風への配慮

□畳の使用  

稲藁床（八代産）の畳を使用している



畳の使用

□地域産の材料の使用  

地元の杉材をほぼ100%使用している。
仕上げの土壁に地域の土を使用している。



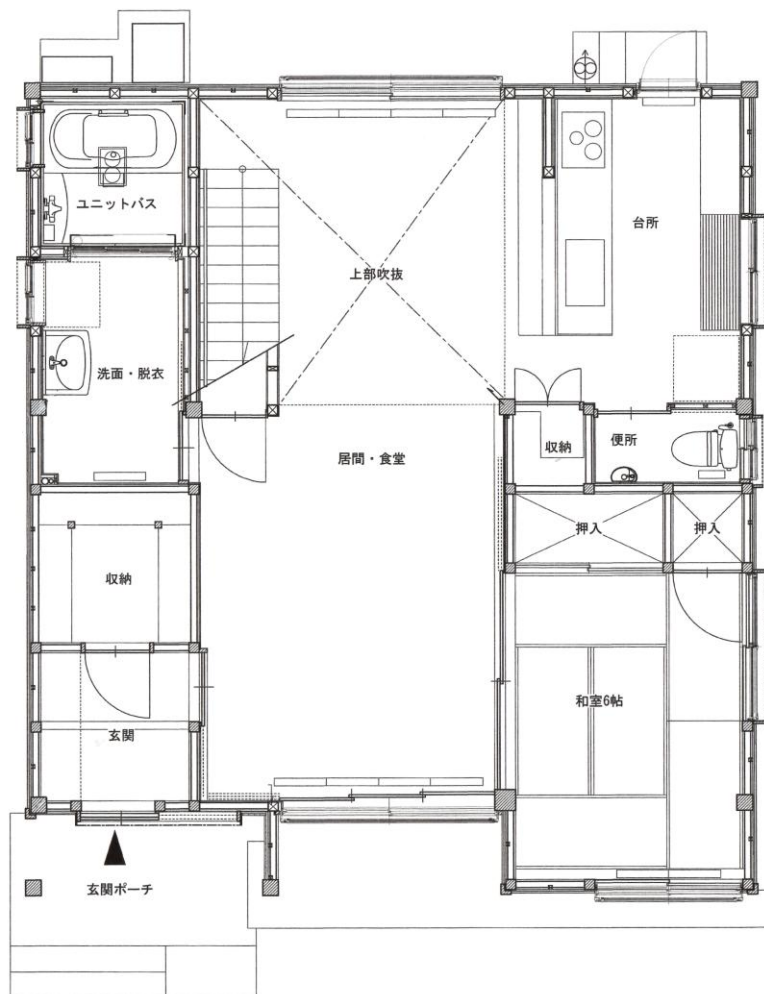
地域産の材料の使用

□地域の建築職人・大工の登用  

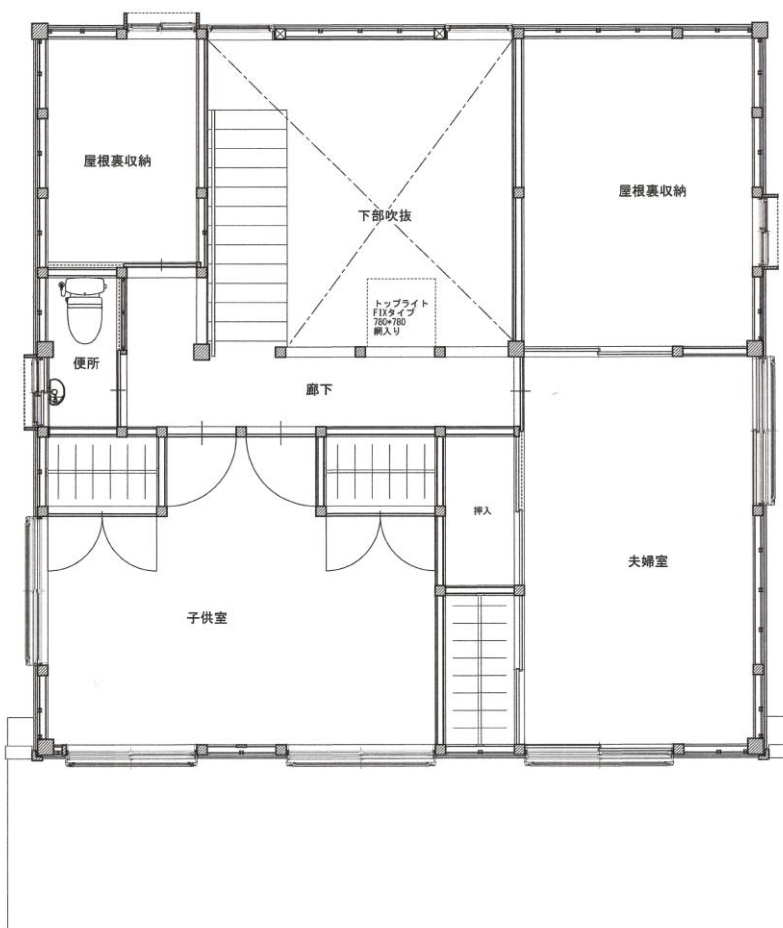
自社の常用大工と大卒の見習い大工による大工集団で仕事をしている。
左官も二代目ができている。

■エネルギー性能

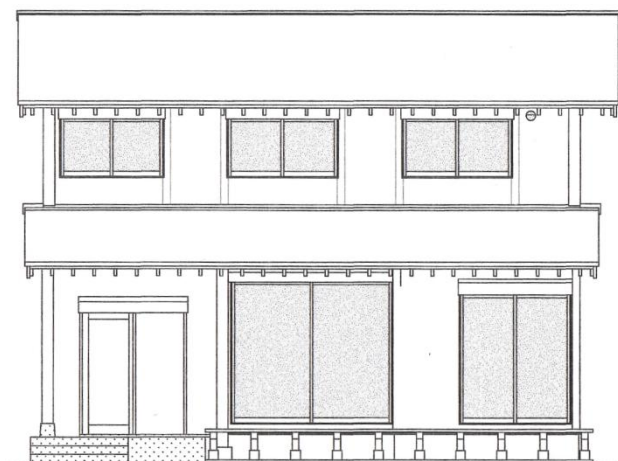
項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（福岡県久留米市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87 以下	1.09 W/（ $m^2 \cdot K$ ）
一次エネルギー消費量	109.9 以下	96.5 GJ/（戸・年）
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0 以下	0.85



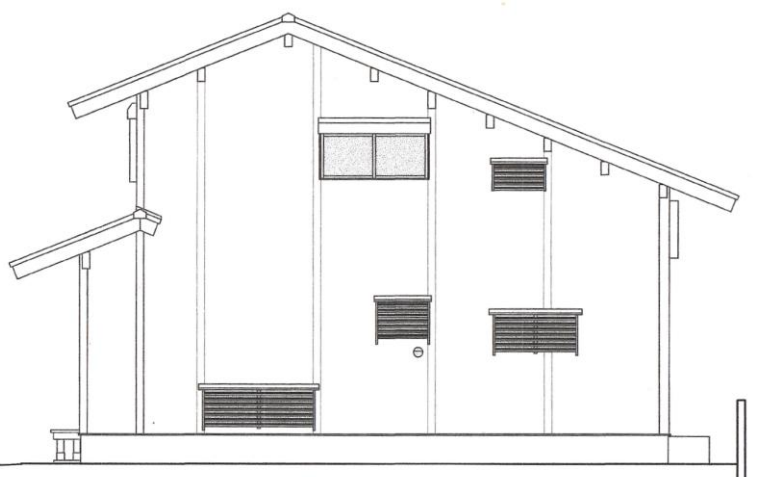
1 階平面図



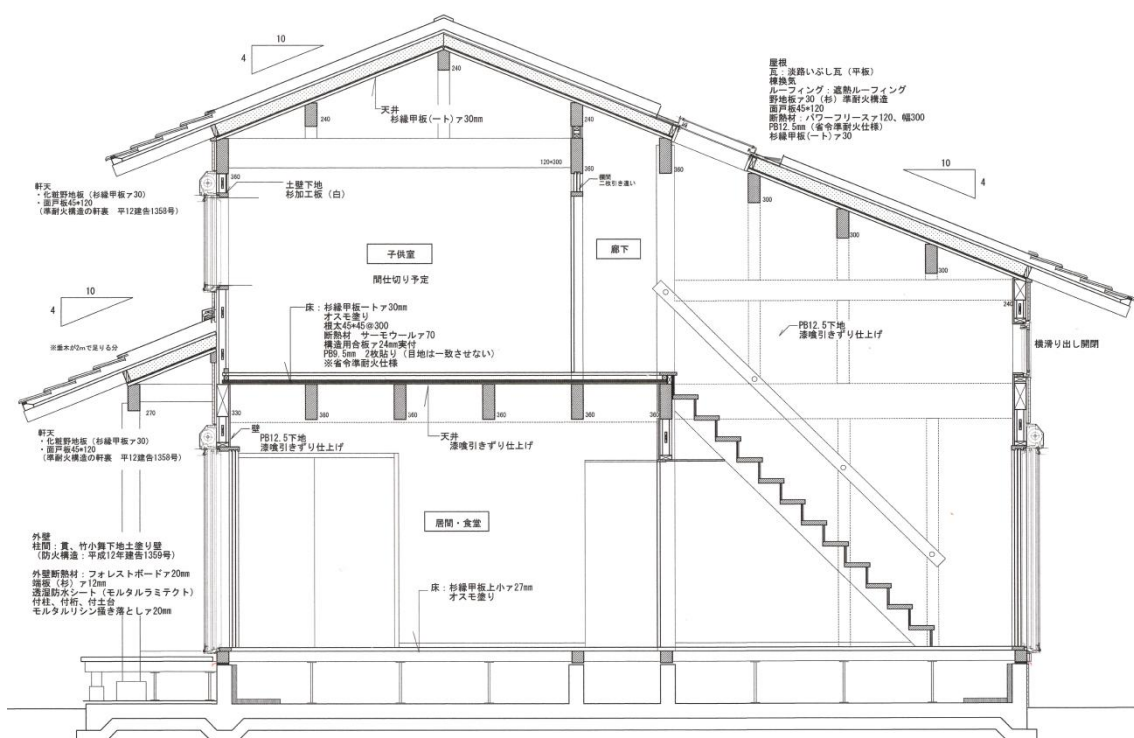
2 階平面図



南側立面図



東側立面図



矩計図

■お施主様の声

30年前に実家を建築工房 悠山想さんに建ててもらっていて、とても住み心地がいいので、今回の新築も依頼しました。家族全員で健康的な生活をしたと考え、土壁をはじめとする住まいづくりの考え方に賛同しています。土壁は、心地よさを感じさせてくれるので、暑い日でもエアコンに頼ることなく快適な生活が送れます。冬は床下エアコンだけで過ごすことができ、厚い無垢材の床板は裸足で歩いても心地よく、温もりを感じます。4月～5月にかけては、地窓や高窓、南北の大きな窓を開け、風通しや室温を調整しながら過ごしています。大きな木製の梁や建具、作り付けの家具などに木をふんだんに使い、八女和紙など地元の素材も柔らかい雰囲気、気に入っています。

■設計者の声

当初、外壁の仕様としては別の材料を検討していましたが、土壁の実現をめざして、この事業に申請しました。設計にあたっては、お施主様にアンケートで考え方や住まい方、家族構成や趣味などを細かく聴き、設計調書を作成してからプランニングに入るようにしています。土地面積や防火上の制約が大きい中で、通風や日射取得に配慮し、吹き抜けや連続する空間を設けることで開放的で広がりのある室内空間としました。暖房は床下エアコンを主としていますが、土壁や杉の無垢の厚板の熱容量の大きさが、体感温度に良い影響を与えていると考えています。こうした気候風土型の設計は、弊社の大前提となっているもので、和室や床の間、田の字プランを基本とした明快な構造により「現代の民家」づくりを目指しています。